サンケイ新聞
H18/11/16

## 携帯電話で冊子から観光地情報取り出す

# 「紀南発信いつどこナビ」スタート

県は携帯電話を使って観光地の情報を取り出すシステム「紀南発信いつどこナビ」をスタートさせた。イベントの動画などもあり、これからの時代の観光案内のツールとして人気を呼びそうだ。

観光客はまず、各地の観光協会などで冊子「紀南発信いつどこナビ」を入手。冊子には那智勝浦、太地、古座川の3町106カ所の観光地の情報が取り出せるQRコードが付いており、QRコードが読み取れる携帯電話を使えば、106カ所の情報が静止画と音声で取り出せる。

また、106カ所のうち14カ所については30秒の動画も付いており、例えば熊野那智大社（那智勝浦町）の「那智の火祭」の動画を見ることができる。

現在は冊子「紀南発信いつどこナビ」のQRコードから情報を引き出す方法だが、県は今後、観光地の案内板などにもQRコードのステッカーを貼ることにしており、そうなれば、冊子がなくても現地で観光案内の情報が得られるようになる。

▲QRコードが掲載されている冊子「紀南発信いつどこナビ」

文字情報は日本語のほか、英語、中国語、韓国語に対応。音声案内は日本語と英語に対応している。

冊子「紀南発信いつどこナビ」は各地の観光協会のほか、主要なホテルや駅で入手できる。

県は「来年度は田辺市本宮町などで、さらにその次年度は白浜町などでこのシステムが使えるよう範囲を広げたい」と話している。